

GIS
導入について

執筆担当者
堀口 幸徳

GISのシステム導入費用は千差万別である。下は数十万円程度から上は十億円以上かかる場合もある。GISをマーケティングに利用する場合、その要因はデータをどれだけ揃えるか？によつてほとんど決まってくる。道路地図、国勢調査、NTTタウンページ、住宅地図・・・ほしいデータを上げればきりがない。しかし、利用する業務を特定し、目的が明確になれば、そんなに多種類のデータは必要ない。機能とデータを絞れば、そんなに手が届かない道具ではない。

ある市では、市と商工会議所を中心とした地域活性化事業内のA

SP事業において、GISを用いた商圈分析を行っている。利用者の利便性向上と構築・運用時の費用軽減を基本コンセプトにGISを構築している。

商工会議所の会員向けに、商圈分析ツールをインターネット経由で利用できるASP（Application Service Provider）サービスとすることで、各店舗におけるGIS導入費用とメンテナンスの負担を生じさせないようになっている。一般的なGISでは、目の前のコンピュータにGISソフトとデータをインストールして操作を行うが、その導入費用は安価とは言えず、メンテナンスにも専門知識が必要となるため、各店舗にてGISを導入することは困難である。そこでインターネット経由でGISを利用できるシステムを構築したのである。WebGISソフトを用いてGISデータを配

信しており、このサイトを利用することにより、システム構築におけるソフト等の導入費用を軽減させている。このように協同でGISを利用することが可能である。旅館業の場合も同じである。各旅館でそれぞれGISを導入すると費用もかかりメンテナンスも大変である。旅館組合等で導入し各旅館に利用していただけのようなWebGISシステムを構築したらよいのではないか。

巻く世界の動きは、日進月歩の激しい変化に見まわれている。今後、ユビキタス・コンピュータリング環境の進展にとともに、GISはさらにコミュニケーションメディアとして進化し、新たに展開していく可能性は大きいといえる。